学校番号	１００６

令和２年度　美術科

教科	美術	科目	クラフトデザイン	単位数	２単位(4)	年次	２・３年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

クラフトでは、日常生活で使用できる小物や工芸作品を制作し物づくりに対する喜びや物を大切にする気持ちを養っていきます。

２　学習の到達目標

日常生活で使える、身の回りの小物などの制作と鑑賞をとおして、表現する喜びを味わう。
実用品としての機能性や、ｵﾌﾞｼﾞｪ作品としてのﾃﾞｻﾞｲﾝ性等を考えて制作し、生活の潤いについて考える。
自分なりの技法を追求する。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	身の回りの小物などの制作をとおして、制作や自己表現に自信を持ち、興味を持たせる	・ 限られた時間の中で、課題を進めながら、各制作テーマにあった、いくつかの技法を紹介しつつ、表現の幅が広がるようにつとめる。	最低限習得する必要な技能を身に付ける。	個々の生徒が本来持っている感性を生かした作品を作るように、適正な指導、助言につとめる。 生徒間でお互いの作品を鑑賞し合い、話し合えるようにする。
評価方法	・ 感想ﾚﾎﾟｰﾄ ・ 取組状況・制作態度・応用力観察	・ 取組状況・制作態度・応用力観察	・提出作品 オリエンテーション(ｱｲﾃﾞｱｽｹｯﾁ・制作計画・作品)	・ 感想ﾚﾎﾟｰﾄ

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	オリエンテーション	・　身の回りのｸﾗﾌﾄ作品を改めて再認識する。 制作に関する留意点を説明する。	○				a:ｸﾗﾌﾄﾃﾞｻﾞｲﾝの学習内容に興味、関心を持ち自己の表現力を出す	感想ﾚﾎﾟｰﾄ
	オリジナルブランド	・　企業のブランドロゴについて学ぶ ・　ブランドイメージを作りコンセプト考える		○	○		b:デザインの独創性 c:作業の丁寧さ 考える力	取組状況･制作態度･応用力観察 提出作品 (ｱｲﾃﾞｱｽｹｯﾁ･制作計画･作品)
	消しゴムスタン	オリジナルブランドのロゴから消しゴムスタンプを制作する。			○		c：作業の丁寧さ b:アイデアの豊かさ	取組状況･制作態度･応用力観察 提出作品 (ｱｲﾃﾞｱｽｹｯﾁ･制作計画･作品)
	レジンアクセサリー	レジンの性質の特徴を学び普段使いたくなるようなアクセサリーを作ろう。	○				a:色の組み合わせで表現できる対比の効果を理解し、イメージに近いレジンを制作できるか。	取組状況･制作態度･応用力観察 提出作品 (ｱｲﾃﾞｱｽｹｯﾁ･制作計画･作品)
	プラ板アクセサ	レジンとプラ板を組み合わせて、アクセサリーを作ろう		○			b:ブランドイメージからインスピレーションを得て制作できているか。	取組状況･制作態度･応用力観察 提出作品 (ｱｲﾃﾞｱｽｹｯﾁ･制作計画･作品)
	作品のパッケージ	身近な素材(クラフト紙、新聞紙)などを利用してプレゼントされて嬉しいパッケージングを考えよう。		○		○	b:自分のブランドイメージに合わせて工夫ができているか。 d:文化祭で販売し購入者の気持ちを考える。	取組状況･制作態度･応用力観察 提出作品 (ｱｲﾃﾞｱｽｹｯﾁ･制作計画･作品)

	レポート	今までに学んだことの確認および自己･相互評価				○	d:理解力と鑑賞力。 生活の中での身の回りのものに対する認識の変化があるかどうか。	ﾚﾎﾟｰﾄ (作品ｽｹｯﾁ･文章) 自己･相互評価
	夏休みの宿題	高校展鑑賞				○	d:理解力と鑑賞力。	鑑賞ﾚﾎﾟｰﾄ
2学期	文化祭企画	文化祭での展示企画を考える 文化祭での展示作品のレイアウト				○	d:グループワークを通して仲間と協力し合えるか。	取組状況･制作態度･応用力観察 提出作品 (ｱｲﾃﾞｱｽｹｯﾁ･制作計画･作品)
3学期	和風ランプシェード	張子制作のﾌﾟﾛｾｽを学び、計画的に制作する。 ﾗﾝﾌﾟとしての機能性を考えつつ、ﾃﾞｻﾞｲﾝ性も優れた作品を作る。	○	○	○		a.b.c:張子製作過程を理解し、作業密度が高いものができたかどうか。	取組状況･制作態度･応用力観察 提出作品 (ｱｲﾃﾞｱｽｹｯﾁ･制作計画･作品)
	レポート	・　１年間をとおしての自己評価を含めた感想文				○	d:理解力と鑑賞力。 制作を通して気づいたことや得たことは何か。	・　ﾚﾎﾟｰﾄ 自己･相互評価

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。